

2023年2月28日

中央大学アカデミック・サポートセンター ライティング・ラボ
2022年度後期活動報告書

抄録

今期も、対面とオンラインの同時開室を実施した。セッション数は、698件、稼働率は74.11%であった（I-3）。74.11%という稼働率は、ライティング・ラボ開設以来最も高く、11月の白門祭明けの週からほぼ連日満席に近い状況であった。特に12月は、満席のため予約を受け付けられないケースもあり、需要に対してセッション供給数が不足する時期があった。学生のライティング・ラボ利用動機は「教員の推奨」が最も多かったため、教員への周知が進んだと考えられる一方で、セッション供給数不足に繋がったともいえる。なお、空き時間を利用した研修によるセッションの質の維持・向上のためにも、稼働率は60%台が理想である。来期以降も継続してチューター育成し、セッション枠数の安定供給に努めたい。

総セッション数のうち、対面は456件、オンラインは242件であった。今期の特徴として、対面形式のニーズが増加したことが挙げられる。オンラインでの音声のみによるコミュニケーションへの不安、授業の前後にキャンパス内でセッションを受けられる利便性などから、対面形式のニーズが高かったと考えられる。今後も学生のニーズに合わせてセッションを実施していく。

今期初めて実施したチューター面談からは、経験を積むにつれ、チューターの焦点がセッション内の対話における言語的な要素から、徐々に非言語的な要素や対話以外の要素に広がっていることが明らかになった。このことから、ライティング・ラボで経験を積むことで、様々な観点から「教育」を捉えられるようになってきているといえよう。また、セッションでの経験を自身の研究活動や教育実践に活かしているコメントも見られた。以上から、院生へのキャリア支援を行う場としての機能も一定程度果たせていると考えられる。

以 上

はじめに

2022 年度後期におけるライティング・ラボの活動状況について、以下の通り報告する。I では開室状況と利用実績、II ではセッション以外の活動、III では来期において特筆すべき所見を述べる。

I 開室状況と利用実績

I-1 開室期間と日数、チューター配置数

開室期間:2022 年 9 月 21 日から 2023 年 1 月 24 日までの月・火・水・木・金曜日

開室時間:14:10~17:40 ※木曜日のみ 10:50~17:40

開室日数:75 日(前年度 72 日)

設置セッション数:954 コマ(前年度 1039 コマ)¹

アカデミック・ライティング部門長:尹智鉉

スーパーバイザー(SV):中野玲子

アシスタント・スーパーバイザー(ASV):松井雄志

シニアチューター(ST):5名

チューター14名(一人当たり4~12コマ担当)

I-2 受付方針(2022 年度前期)

受付優先順位および予約の可否は、文章の種類(対象文章かそれ以外か)に基づく。

1. 対象文章

授業で課題となったレポート、発表レジュメ、卒業論文、修士論文、博士論文、投稿論文、プレゼンテーション原稿(スライド、口頭用)、研究計画書、ボランティアセンター報告書、総合政策学部プロジェクト活動報告書

2. 空きがある場合につき、受け付ける文章

奨学金応募書類に含まれる志望動機書、留学志望書、公務員試験練習課題

日本語翻訳(授業の課題のみ)

そのほか、アカデミック・ライティングの観点でコメントできそうな文章

3. 受付不可とする文章

¹稼働可能なブース数すなわちチューターの配置数をコマとしてカウントした。2022 年度から稼働率の算出方法を 2019 年度までのものに戻した。SV/ASV に関しては、セッション空き時間はその他業務を行うため、設置数に含めないこととした。2021 年度も同様に計算すると、設置セッション数は 916 コマである。

就職活動関係の文章(キャリアセンターへ案内)、メールや手紙の文章
英語の文章、公務員試験以外の筆記試験対策のための相談

I-3 実施セッション数と稼働率

実施セッション数:698件(前年度635件)(うち対面456件、オンライン242件)

セッション稼働率:74.11%(前年度稼働率61.12%)²

図1は、2013年のライティング・ラボ開設時からのセッション稼働率推移を示す。20年度はコロナ禍で稼働率が落ち込んだものの、徐々に回復し、22年後期はこれまでで最も高い稼働率となった。コロナ禍では、ライティング・ラボの周知が徹底せず、特に前期の利用率が低かったものの、後期はゼミ論・卒論などでコロナ禍にも関わらず需要が高かったことが伺える。23年度は前期の広報活動を工夫し、学生生活の早い時期からのラボ利用に結び付けたい。

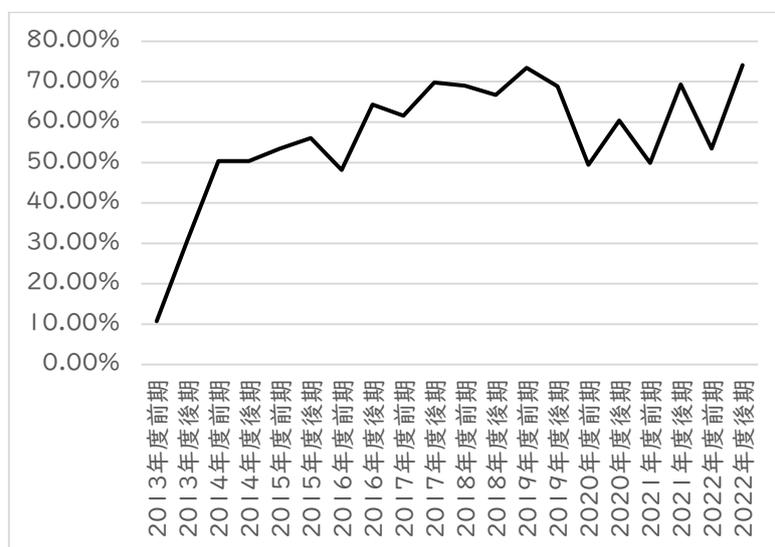


図1 ライティング・ラボ学期別稼働率の推移

セッションの稼働実態を把握するため、以下に、週毎の設置数・稼働数の推移(図2)、週毎の稼働率の推移(図3)週別・曜日別のセッション数と稼働率の表(表1、表2)を示す。これらの図表からも、白門祭以降に利用率が挙がり、ほぼ連日満席だったことが明らかである。

² 2022年度から稼働率の算出方法を2019年度までのものに戻した。SV/ASVに関しては、セッション空き時間はその他業務を行うため、設置数に含めないこととした。また、No Show(予約はしたものの来室せず)については、実施扱いで稼働率を算出した。実際のセッションは698回であるが、稼働率の計算に関しては、セッション数は707回としている。2021年度も同様に計算すると、設置稼働率は69.32%である。

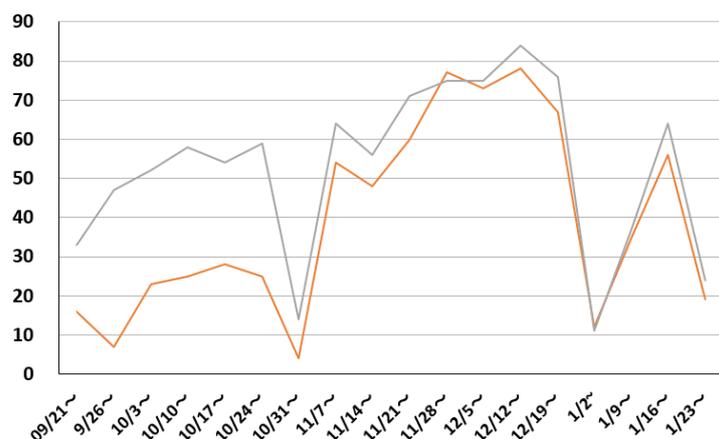


図2 2022年度後期週別セッション設置数・稼働数の推移
 (灰色:設置数、茶:稼働数)



図3 2022年度後期週別セッション稼働率の推移

また、表1及び表2から 曜日別に見ると、火曜及び水曜の稼働率が高いが、これはセッション設置数が他曜日と比較して、少ないためである。また月曜日と木曜日は新人チューターの着任曜日となり、新人チューター研修を実施していたため、稼働率が比較的低くなった。

表1 週別・曜日別セッション数・稼働率(9月第4週~11月第4週)

		09/21~	9/26~	10/3~	10/10~	10/17~	10/24~	10/31~	11/7~	11/14~	11/21~
月	設置数		8	11	13	12	12	11	12	14	15
	稼働数		2	3	6	4	5	2	7	6	8
	稼働率		25.00%	27.27%	46.15%	33.33%	41.67%	18.18%	58.33%	42.86%	53.33%
火	設置数		7	10	8	10	8	3	12	7	12
	稼働数		1	8	5	6	4	2	11	7	12
	稼働率		14.29%	80.00%	62.50%	60.00%	50.00%	66.67%	91.67%	100.00%	100.00%
水	設置数	4	8	8	10	8	8		10	7	12
	稼働数	4	0	5	5	5	4		8	9	11
	稼働率	100.00%	0.00%	62.50%	50.00%	62.50%	50.00%		80.00%	128.57%	91.67%
木	設置数	18	13	12	15	16	19		19	20	16
	稼働数	5	3	5	7	9	8		18	19	13
	稼働率	27.78%	23.08%	41.67%	46.67%	56.25%	42.11%		94.74%	95.00%	81.25%
金	設置数	11	11	11	12	8	12		11	8	16
	稼働数	7	1	2	2	4	4		10	7	16
	稼働率	63.64%	9.09%	18.18%	16.67%	50.00%	33.33%		90.91%	87.50%	100.00%
計	設置数	33	47	52	58	54	59	14	64	56	71
	稼働数	16	7	23	25	28	25	4	54	48	60
	稼働率	48.48%	14.89%	44.23%	43.10%	51.85%	42.37%	28.57%	84.38%	85.71%	84.51%

表2 週別・曜日別セッション数・稼働率(11月最終週~1月第4週)

		11/28~	12/5~	12/12~	12/19~	1/2~	1/9~	1/16~	1/23~	後期全体
月	設置数	16	16	20	16			15	15	206
	稼働数	15	16	20	14			14	10	132
	稼働率	93.75%	100.00%	100.00%	87.50%			93.33%	66.67%	64.08%
火	設置数	12	12	12	11			9	9	142
	稼働数	14	11	12	11			9	9	122
	稼働率	116.67%	91.67%	100.00%	100.00%			100.00%	100.00%	85.92%
水	設置数	12	11	12	10		11	9		140
	稼働数	12	12	12	8		11	9		115
	稼働率	100.00%	109.09%	100.00%	80.00%		100.00%	100.00%		82.14%
木	設置数	19	20	24	23		26	17		277
	稼働数	19	20	23	21		24	12		206
	稼働率	100.00%	100.00%	95.83%	91.30%		92.31%	70.59%		74.37%
金	設置数	16	16	16	16	11		14		189
	稼働数	17	14	11	13	12		12		132
	稼働率	106.25%	87.50%	68.75%	81.25%	109.09%		85.71%		69.84%
計	設置数	75	75	84	76	11	37	64	24	954
	稼働数	77	73	78	67	12	35	56	19	707
	稼働率	102.67%	97.33%	92.86%	88.16%	109.09%	94.59%	87.50%	79.17%	74.11%

注) 100%超は、提出期限直前等の学生対応のため、延長等で設置数より多くセッションを行ったことを表している。

表3~表5にセッション形式の内訳を2021年後期~2022年後期までの3期分を示す。2021年には、オンラインのほうが多かったが、2022年前期には対面とオンラインが同程度となり、2022年前期には、対面セッションが全体の約65%となった。キャンパスに来る学生が増えるとともに、対面でのセッション利用が増加したといえよう。オンラインでの音声によるコミュニケーションへの不安や、キャンパス内で授業の前後にセッションを受けられるという利便性が対面セッションの増加に繋が

ったといえる。

表 3 2021 年度後期セッション形式の内訳

2021 年度後期	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	計
対面	0	14	63	45	27	149
オンライン	57	97	121	133	78	486
計	57	111	184	178	105	635

表 4 2022 年度前期セッション形式の内訳

2022 年度前期	4 月	5 月	6 月	7 月	計
対面	14	21	76	97	208
オンライン	9	21	56	114	200
計	23	42	132	211	408

表 5 2022 年度後期セッション形式の内訳

2022 年度後期	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	計
対面	19	78	134	163	62	456
オンライン	4	23	70	86	59	242
計	23	101	204	249	121	698

【所見】

2022 年度から稼働率の算出方法を 2019 年度までのものに戻した。SV/ASV に関しては、セッション空き時間はその他業務を行うため、設置数に含めないこととした。この算出方法で比較すると今期稼働率は前年同期より 7.791%増加した。実施セッション数は 63 件増加した。

セッション形式に注目すると、対面セッションのニーズが高まったことが明らかである。今後も学生のニーズにあわせたセッション設置を行っていききたい。

稼働率に関しては、11 月以降高くなり、期末前には 100%近く稼働していた。チューターの負担およびセッションの質の維持・向上を考えると 60%台での推移が望ましい。来期以降もチューター育成及び研修を継続的に行い、セッションの質の維持・向上に努めたい。

I-4 利用学生の内訳

*利用学生数(延べ)³

2023 年度後期合計 698 名(前年度 635 名)

³ 延べ利用数。実施セッション数に基づくため、同一学生の同一日利用および連続セッションを含む。

*初来室数

197名。そのうち留学生の初来室は20名

*利用学生の所属（）内は留学生の人数

法学部	148(14名)
経済学部	49名(9名)
商学部	52名(18名)
理工学部	0名(0名)
文学部	232名(18名)
総合政策学部	55名(0名)
国際経営学部	5名(5名)
国際情報学部	0名(0名)
法学研究科博士前期	41名(41名)
経済学研究科博士前期	26名(25名)
商学研究科博士前期	5名(4名)
理工学研究科博士前期	0名(0名)
文学研究科博士前期	31名(24名)
総合政策／公共政策研究科博士前期	12名(9名)
法学研究科博士後期	24名(24名)
経済学研究科博士後期	0名(0名)
商学研究科博士後期	2名(0名)
文学研究科博士後期	7名(7名)
総合政策／公共政策研究科博士後期	5名(5名)
法学部通信教育課程	2名(0名)
ビジネススクール	2名(0名)
聴講生	0名(0名)
計	698名(202名)

*利用学生の学年（）内は留学生の人数

学部1年	173名(4名)
学部2年	41名(5名)
学部3年	55名(4名)
学部4年	261名(43名)
学部5年以上	13名(7名)
博士前期／修士	115名(103名)
博士後期	38名(36名)
法学部通信教育課程	2名(0名)
ビジネススクール	0名(0名)
聴講生	0名(0名)
計	698名(202名)

I-5 相談文章の種類（）内は留学生の人数

授業のレポート	229 件(11 件)
授業の発表資料	20 件(10 件)
研究計画書	50 件(37 件)
卒業論文	220 件(26 件)
修士論文	93 件(83 件)
博士論文	0 件(0 件)
投稿論文・研究ノート	20 件(13 件)
学外での発表資料	4 件(0 件)
その他	62 件(23 件)

【所見】

利用学生の所属内訳から、日本人学生では法学部と文学部の利用が多いことがわかる。授業のレポート執筆にあたり、教員からの利用推奨が多かったためだと考えられる。

留学生は、法学研究科と文学研究科の利用が多いことがわかる。これは繰り返し利用する学生が法学研究科や文学研究科に所属していたためである。延べ人数としては多いが、実人数は少ない。法学研究科博士前期は4名、法学研究科博士後期の利用は1名だった。

日本人学生の学年の内訳をみる。レポートの書き方を学ぶ授業でライティング・ラボを利用する学部1年生と卒業論文で利用する学部4年生の利用が顕著だった。また、来室のきっかけは後述のとおり、ほとんどが教員からの推奨であった。

相談文章に注目する。最も利用される課題は授業のレポートである。学部1年生の授業レポートが大部分を占めている。また、卒業論文でも同程度利用されている。修士論文の相談で利用する学生はほとんどが留学生である。学部1年生の2年次以降の継続利用促進、および日本人大学院生の利用促進が今後の課題である。

I-6 利用学生のアンケート

各セッション終了後、利用学生に任意でアンケートに協力してもらった。対面では紙面にて、オンラインは Google フォームにて実施した。対面では 166 通、オンラインでは 243 通を回収した。質問項目と結果は以下の通りであった。

ライティング・ラボを知ったきっかけ⁴

ライティング・ラボを知ったきっかけを表6にまとめた。

表6 ライティング・ラボを知ったきっかけ

きっかけ	件数(そのうちの留学生の件数)
ラボの HP/SNS	16 件(2 件)
授業で知った/先生にすすめられた	137 件(13 件)
友人/先輩/後輩にすすめられた	32 件(5 件)
レポートの書き方資料で知った	7 件(1 件)
学内のポスターやパンフレットで知った	15 件(2 件)

⁴ 複数回答可とした。

ラボのイベント(講座など)で知った	0件(0件)
入学時のガイダンス/資料で知った	7件(1件)
その他	7件(0件)

セッションは有益だったか⁵

セッションが有益だったかどうかに対する回答を表7にまとめた。

表7 セッションは有益だったか(件数)

	対面	オンライン
有益ではなかった	1	0
あまり有益ではなかった	1	1
どちらともいえない	3	1
有益だった	43	32
とても有益だった	196	126

セッションが有益だと感じた理由

セッションが有益だと感じた理由を、自由記述でたずねた。回答をまとめると、「今後の方向性や目的の明確化」「新たな着眼点」「自分の文章の問題点/疑問点の解消」「文章の構成に関する気づき」「内容や思考の整理や明確化」「引用のマナーの確認作業」「ポジティブフィードバックによる自信」「文や語句に関する気づき」を有益だと感じていることが示された。

セッションの時間⁶

セッションの時間についてどう感じたかについての回答を表8にまとめた。

表8 セッションの時間についてどう感じたか(件数)

	対面	オンライン
短かった	10	7
少し短かった	59	45
妥当だった、ちょうどよかった	169	108
少し長かった	4	0
長かった	0	0

対面セッションの良かった点⁷

場所がわかりやすかった 43件
セッションブースなどの環境が整っていた 97件
文章の共有が楽だった 114件

⁵ 「有益ではなかった」「あまり有益ではなかった」「どちらともいえない」「有益だった」「とても有益だった」の5段階評価。

⁶ 「短かった」「少し短かった」「妥当だった、ちょうどよかった」「少し長かった」「長かった」の5段階評価。

⁷ 複数回答可とした。「対面セッションで困った点」「オンラインセッションの良かった点」「オンラインセッションで困った点」も同様。

チューターとの意思疎通がしやすかった 208 件

対面セッションで困った点

場所がわかりにくかった 23 件
セッションブースなどの環境整備に問題がある 1 件
文章共有の準備に手間取った 16 件
チューターとの意思疎通が難しかった 6 件

オンラインセッションの良かった点

移動の手間が省けた 149 件
文章やデータの事前共有が楽だった 99 件
対面とは異なり緊張せずに済んだ 49 件
その他 1 件

オンラインセッションで困った点

場所の確保が難しかった 0 件
文章やデータの事前共有が大変だった 13 件
どのように操作すればよいのかわからず不安だった 5 件
チューターの声が聞き取りづらいときがあった 18 件

より良いライティング・ラボにするためのアドバイス

より良いライティング・ラボにするためのアドバイスとして自由記述で回答を求めたところ、「予約の際に第2第3希望で別日を選べるようにしてほしい」(1 件)「セッション時間の延長希望」(1 件)「広報活動の強化」(2件)「HP を見やすくしてほしい」(1 件)に関する意見も挙げられた。

【所見】

利用のきっかけは教員の推奨によるものが多かった。今後も教員への宣伝を継続し、学生への周知につなげたい。セッションについては、とても有益だった、有益だったという回答が 397 件であった。有益だと感じた理由からも、チューターと一緒に検討するという作業が有効であることがわかり、ラボの理念に沿った学びの場を提供できているといえよう。

対面セッションの良かった点として、「チューターとの意思疎通がしやすかった」という点が多く挙げられた。一方、困った点として、前期に HP 上にラボへの経路を案内する画像を掲載し、対処済であったにもかかわらず、ラボの場所がわからなかったという回答が一定数あった。HP が複雑と言う声もあったので、改善していきたい。

II セッション以外の活動

II-1 広報活動

II-1-1 出張ガイダンス及び見学ツアーの実施

今学期は、出張ガイダンス 6 件、見学ツアー 11 件、合計 17 件実施した。出張ガイダンス/見学ツアーを機に、教員との連携を深め、課題について具体的な情報を得たことで、

ラボでの支援がより効果的に行えた事例もあった。なお、ラボ閉室時間帯でのガイダンス/ツアー実施希望も一定数あり、対応の検討が必要である

【所見】

後期は、相対的に見学ツアーの要望が多かった。来室後にセッションを利用する学生も一定数見られ、見学ツアーの効果が感じられる。見学ツアー実施の教員に向けた宣伝に工夫をしていきたい。

4年次に初利用した学生からは「ライティング・ラボがあることを知らなかった」という声を頻繁に聞く。学生への宣伝方法についても引き続き検討していきたい。

II-2 研修

II-2-1 チューター全体研修

前期に引き続き、曜日毎に各1回の研修を担当する形で実施した。シニアチューター中心に、テーマ決め（表9）、事前課題や当日進行の検討、資料作成等を通して協働することで、チューターの学びの深化に加え、チューター間のコミュニケーション活性化に繋がった。また、セッションにおける自分たちの課題からテーマ選択したことから、より実践に即した研修内容になったといえる。

表9 2022年後期チューター全体研修の概要

日時	担当	テーマ
10月13日	水曜日チューター	セッションの時間配分
10月20日	月曜日チューター	個人ファイルの活用方法
11月10日	木曜日チューター	専門性の高い文章を読む
11月24日	金曜日チューター	良いところをほめる
12月8日	火曜日チューター	書き手のオーナーシップを尊重する

II-2-2 新人チューター研修

今期就任の新人チューター2名に対し、配属曜日のチューターを中心に、文章診断練習・セッションの計画・模擬セッションなどを約1ヶ月半にわたり実施した。シニアチューター中心に2期目以降のチューターも参加し、学び合いという点を重視し、全員のレベルアップが図れるような新人研修を実施したい。

II-2-3 チューター面談結果

学年末に、SVによるチューター個別面談を実施した。当施設は大学院生チューターのキャリア形成支援を行う機能も併せ持つことから、ライティング・ラボでの経験が大学院生チューターの研究活動や教育実践に影響があるか、面談より考察する。

以下、勤務して1年未満の新人チューター、2～3年の中堅チューター、4年目以上のベテランチューターに分けて、記述する。

新人チューターは、セッションにおける学生との対話に関する省察が多く見られた。チューターの意図を「わかりやすく学生に伝える」ためにどのように質問したらよいか、

「学生の発話を拾いながら」どのようにセッションの目標に向かうのか等、セッション内の具体的な対話に関する発言があった。

中堅チューターの面談からは、新人チューターと比較すると、学生との対話に関して何らかの学びを得て、自信をつけていることがわかる。「雑談して関係性を作ることを学んだ」、チューターが「自分でやろうとせず、学生がやっているのを見守れるようになった」、「人の話を待って聞けるようになった」、検討文章を「一緒に読んで進めることが、不安なくできるようになった」など、セッションにおける対話からの学びが見て取れる。特に、話しやすい関係性へのコメントや、学生の力を信じて待つようになったというコメント、一緒にすることに不安がなくなったというコメントから、学生主体の学びに関して経験を積んでいる様子がわかる。なお、この世代のチューターは、コロナ禍の影響を大きく受けたため、ライティング・ラボでの勤務がコミュニティの帰属意識に繋がり、自身自身の孤独の解消になっていたというチューターも複数いた。

ベテランチューターは、より包括的に自分のセッションを省察し、自分の研究活動や教育実践に結び付ける者もいれば、ライティング・ラボの活動全体に目を向けて省察した者もいた。セッションについては、「対面セッションではマスク越しの会話になるため、以前より冗談が通じない」と感じ、「柔らかく話すことに注意していた」というコメントがあった。また、自らがベテランになったことで、セッションの目標設定への「ハードルが高くなってしまっていることを自覚」し、学生主導で「適切なレベルでのゴール設定をするように」注意しているというコメントも見られた。研究活動や教育実践に関しては、「専門分野が異なる論文のパターンを学ぶ」ことで多様な「論証の仕方を学んだ」、「学生の多様な考えを引き出せるような授業」にするため、授業構成などにセッションを応用しているというコメントがあった。ラボ全体の活動に関しては、コロナ前と比較しチューター間コミュニケーションの不足を感じていた者が複数おり、勤務曜日外にラボに足を運び、チューター間コミュニケーションの促進に寄与した者、曜日外チューターとの接触を要する研修を提案した者がいた。

以上、チューター面談を概観すると、チューターになって間もない頃は「学生との対話」に着目することで、ラボの理念に沿ったセッションを目指す者が多いが、年次を重ねることで、学生を信じて見守ったり、関係性を大切にしたりすることで、ラボの理念に沿えると考えられるチューターが増えてくるということがわかる。また、ベテランになると、セッションでの学びを自分の研究活動や教育実践に活かしたり、ラボの活動全般において、ラボの理念を活かすにはどうすべきかと考えたりするようになっている。したがって、当施設におけるチューターのキャリア形成支援という点で、研究活動においても、教育実践においても、一定の効果を見せていると見てよいであろう。

【所見】

白門祭までのセッションに比較的余裕がある時期を研修準備期間として確保し、各曜日のシニアチューターを中心に勤務時間内に準備を進めた。チューター間の学び合いの促進、コミュニケーションの活性化という点からもよい取り組みになっているといえよう。しかしながら、研修はオンラインで実施しているため、担当曜日の異なるチューター間コミュニケーションが充分とはいえない。そこで、来期以降は、担当曜日外のチューターともコミュニケーションが取れるような研修を計画内に入れていきたい。

II-3 中大付属杉並高校チューター派遣業務

報告書を別添1に記載。

Ⅲ 来期に向けた所見

Ⅲ-1 チューター公募

後期のチューター公募を例年通り実施する。スケジュールは下記のとおりである。来期、法学研究科移転後も、法学研究科の院生も応募可能であるが、研修は多摩キャンパスで行うこととする。研修修了後の勤務先については、できる限りチューターの研究活動を鑑み、基本的に自宅勤務とし、月1程度多摩キャンパス勤務とする予定である。

2月28日	応募書類受付締め切り
3月8日	面接
4月1日	着任

Ⅲ-2 アソシエイト・スーパーバイザー着任予定

22年度は、「博士前期課程修了生のうち、小・中・高・大において3年以上の教員歴を有する者（非常勤を含む）」へのキャリア支援として設置したアシスタント・スーパーバイザー1名が勤務したものの、博士後期課程修了生へのキャリア支援のためのポジションとして設置したアソシエイト・スーパーバイザーは空席であった。来学期から、アソシエイト・スーパーバイザー1名が着任予定となったことで、アソシエイト・スーパーバイザーとアシスタント・スーパーバイザー共に勤務する体制となる。より充実した管理体制を整えることで、安心してセッションができる場づくりを行い、セッション及び研修内容の質を向上させるとともに、広報活動にも力を注ぎたい。さらに、ラボにおけるキャリア支援という役割を示すことで、安定したチューター獲得に繋げていきたい。

Ⅲ-3 開室時間拡大

22年度は、年間を通して週1全日開室、週4半日（午後）開室を行った。しかしながら、全ての予約を受け付けられない期間があったこと、一定曜日にセッションが集中する傾向にあることから、来学期は週2日全日開室、週3半日（午後）開室へと開室時間を広げ、セッション設置数を増加する予定である。

以上

2023年2月28日
スーパーバイザー 中野玲子
アシスタント・スーパーバイザー 松井雄志

【別添 1】

中央大学杉並高校セッション(前期・後期) 実施報告書

2023年1月12日(木)

1. セッション設置数と実績

- ・ 1セッション40分、
開室時間①15:45-16:25、②16:30-17:10、③17:15-17:55
- ・ 前期は48回、後期は30回セッションを設置
- ・ 稼働率は前期93.8%、後期100%で、全体としては96.2%の稼働率であった
- ・ 中杉側でオンラインと対面の2ラインで学生サポートをするのが大変という理由で、後期のセッション設置数を1日1ラインに減らした。
- ・ 卒論提出直前でセッション希望者が増えたため、11月の最終日のみ対面2ラインで対応(3セッション増設)した。

<22年度の稼働率>

	前期	後期	計
設置数	48	30	78
実績	45	30	75
稼働率	93.8 %	100.0 %	96.2 %

月別	5月	6月	9月	10月	11月	計
設置数	21	27	3	18	9	78
実績	18	27	3	18	9	75
稼働率	85.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	96.2%

2. ワークショップ

- ・ 前年度はワークショップを前期に1回行ったが、本年度は、前期の初めと後期の初めの計2回実施した
 - ・ 前期のテーマは前年度に引き続き「テーマの立て方」、後期のテーマは「パラグラフライティングの仕方」とした。
 - ・ その時の学生の悩みに沿ったワークショップテーマであったためか、どちらのワークショップのアンケート結果も好評だった
- ※「このワークショップは有益であったか」というアンケート結果に対して、前期は、6段階評価のうち10人中9人が「強くそう思う」と回答し、残りの1人も「ややそう思

う」と回答した。また、後期も18人中14人が「強くそう思う」と回答し、4人が「ややそう思う」であった。

3.セッション

- ・本年度は中杉の生徒が授業で使う Goolge Classroom から Goolge Meet に接続する形式でセッションを行った。
- ・オンラインセッションを2ライン開室する場合、1ラインは Goolge Meet で通常通り行い、もう1ラインは Webex で行った。
- ・オンラインセッションは、中杉ミーティングルームで教員のPCを使って接続するか、生徒の自宅から実施の予定であったが、通信に不安を感じる生徒が多かったため、結果としてほとんどの学生が学校から接続した。
- ・オンラインセッションを実施する際、課題の提出や meet 接続などに教員のサポートが必要であるため、対面とオンライン1ラインずつのセッションは後期以降中止とし、後期は1日1ライン稼働とした。
- ・中杉側としては、対面2ラインでのセッション設置を希望している。

以 上